

こどもの医療

その「抗菌薬」、本当に必要ですか？

「かぜや胃腸炎は抗菌薬で治る」と思っていませんか？ 抗菌薬は「細菌」に効く薬です。「ウイルス」を原因とする嘔吐や下痢を止めたり、熱を下げたりする働きはありません。抗菌薬をのめば、どんな病気でも良くなるわけではないのです。



● かぜは抗菌薬では治りません

感染症を引き起こす細菌とウイルスは全く別のもので、大きさや構造、薬剤の効き方等が異なります。

抗菌薬は細菌による感染症を治療する薬です。ウイルスが主な原因である一般的なかぜ（発熱・のどの痛み・咳・鼻水等）や胃腸炎には効果がありません。それどころか、のどや皮膚、腸などに無数に棲んでいる細菌のバランスを崩して病原菌の侵入リスクを高めたり、免疫機能を整える有益な細菌にまでダメージを与えて、嘔吐や下痢、皮疹などを引き起こしたりすることもあります。抗菌薬の使用は腸内フローラ（※）の観点からも必要最小限にすることが重要です。

（※）健康に影響を及ぼすと考えられる多種多様な腸内細菌集団のこと。体内の細菌のうち約 9 割が腸内に棲むといわれる。

● 不適切な使用で、薬剤耐性菌が出現

細菌感染症と診断され、抗菌薬を処方されたにもかかわらず、症状が治まったからと自己判断で服用をやめてしまうと、体内の病原菌が変化して、抗菌薬が効かない薬剤耐性菌が出現するリスクが高まります。体内に薬剤耐性菌を保菌してしまうと抗菌薬で治せるはずの病気に薬が効かず、とくに乳幼児や妊婦、高齢者は重症化・難治化してしまうおそれがあります。

抗菌薬に関する正しい知識を身につけて、薬剤耐性菌から子どもを守りましょう。

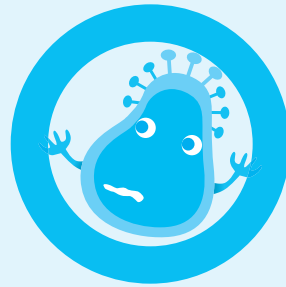
Q. こどもに抗菌薬はのませないほうがいいの？

そうではありません。

細菌感染症に対して抗菌薬が処方されたら、医師の指示どおり全部のみさってください。残った抗菌薬を後日のんだり、人にあげたり、もらったりしてもいけません。

抗菌薬は、必要なときに用量・用法を守って服用する、必要がなければ使わないことが大切です。

細菌



効果あり😊

ウイルス



効果なし😞

この病気に 効く？ 効かない？

抗菌薬



抗菌薬の効果が期待できるもの
細菌感染症

溶連菌性咽頭炎

肺炎球菌性肺炎

マイコプラズマ肺炎

百日咳

細菌性腸炎が疑われ、血圧低下や意識障害等の症状があるとき

中等症以上の急性副鼻腔炎で発熱や痛みが続くとき

急性中耳炎で症状が改善されないとき

伝染性膿痂疹（とびひ）

※抗菌薬の効果が期待できる病気はほかにもあります。



抗菌薬の効果が期待できないもの
ウイルス感染症 | 非感染性疾患

- 一般的なかぜ ● 急性咽頭炎 ● 急性気管支炎
- インフルエンザ ● 新型コロナウイルス
- 嘔吐下痢症（ノロ、ロタなど） ● みずぼうそう
- はしか（麻疹） ● 風疹 ● リンゴ病 ● ヘルパンギーナ
- 手足口病 ● プール熱 ● 慢性呼吸器疾患 など